

## = 審査員からの感想 =

《前回のニュース（7号）に4点載せました、今回はその続きを紹介します》・・・当日会場で審査結果発表の際に、審査員一人ひとりが述べた感想です。

①入選、入賞した方とそうでなかった方とあまり差がないんですね、それももう一つの特徴だったかなと思います。

長年続けてきたことで、技術的なこともそうですが心の交流とかそういうものが関東のよさだと思うし、コンクールって本来そういうものだと思います。新しい風が入って来たと思いました、それが嬉しい。

②プレリユードの中に日本の歌謡曲の入った珍しい演奏がありました。良く知ったメロディーで何となく共感が出来るのではないかと思います。こういう曲を実験的にフリーベースで演奏してみることも素晴らしいことだと思います。

チゴインエルワイゼンは素晴らしい演奏だと思いました。アコーディオンは独奏楽器ではありますが、オーケストラや室内楽などいろんなところで演奏するのがアコーディオンの最大の魅力だと思います。この曲は、オーケストラでやってもっともっとアコーディオンの良さを広めてほしいと思います。

③少なくなったのは“引き直し”です。コンクールって言うのは一発勝負です。真剣勝負なんです、弾き直してないんです。弾き直すことは、その曲はもう捨てちゃうことになるんです。曲に対して失礼です。その曲をちゃんと愛し最初から最後まで引き通してあげることがすごく大事なことです。皆さんも、練習のとき間違えたら弾き直す練習をするのではなく、弾き通す練習が大事なんです。これは、本番近くになってからです。弾き通す練習とこまめな練習両方大事なんです。プロは絶対に弾き直しません、弾き通します。

皆さん音符を追っているんですね。それはすごくいいことなんですけど、そ

れをあえておたまじゃくしを隠して白紙にして、物語と同じで絵にしてみる。ここはテーマの曲、ここは転回したところとか、虹色になった、泥色になったとか何でもいいんです。自分の形で膨らませたらいいと思います。

自分の音を聴くことも大事なことです。録音した曲を聴いて、自分が先生になってみる。自分が先生になることで、あ！ここはもっとこうしたらいいのになって見えてくる。

④私自身の勉強にもなるので、審査員を引き受けています。アコーディオンってジャバラの楽器ですから、強弱の表現、例えば小さい女性の方、年輩の方には難しい面があるかと思いますが、その辺の工夫もテーマにあると思います。

場所によっても（広い場所、狭い場所など）その強弱の取り方を工夫した方がよいのではないかと思います。

ジャズ系の曲ですが、そのリズムのとり方と強弱の取り方をある程度強調した方がよいのではないのでしょうか。良い味が出るように工夫されたいと思う。両手のバランスも同様です。

⑤音符は正確に弾いているんだけど、まだ魂が入っていないって言うのがある。他人が聴いて感動するって言う点に達している人はまだ少ないと思います。

皆さん、他の人が弾いているのを聴いていい曲だなあ自分も弾いてみたいと思っただけで挑戦していると思いますが、基礎的な力が付いていないと、ある段階でそれ以上進まなくなってしまう。感動させる域まではなかなか届かない。そういう点でも基礎力をつける勉強が必要です。

※審査員会より出された別紙「審査結果並びに講評」とあわせてお読みください。以上